

**平成30年度研究拠点形成事業
(B. アジア・アフリカ学術基盤形成型) 実施計画書**

1. 拠点機関

日本側拠点機関：	愛知県公立大学法人 愛知県立芸術大学
(ウズベキスタン)側拠点機関：	ウズベキスタン芸術大学
(中国)側拠点機関：	大連民族大学
(韓国)側拠点機関：	檀国大学校

2. 研究交流課題名

(和文)：現代に生きる“手漉き紙と芸術表現”の研究 ～サマルカンド紙の復興を中心に～

(英文)：The research for the culture of contemporary Hand-Made Paper and artistic expression.

~With the focus on the revival of Samarkand paper~

研究交流課題に係るウェブサイト：<http://labo.a-mz.com/paper/>

3. 採択期間

平成29年4月1日 ～ 平成32年3月31日

(2年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関：愛知県立芸術大学

実施組織代表者(所属部局・職名・氏名)：学長・白木彰

コーディネーター(所属部局・職名・氏名)：美術・教授・柴崎幸次

協力機関：豊田市和紙のふるさと

事務組織：愛知県立芸術大学 芸術創造センター、芸術情報・広報課

相手国側実施組織 (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国名：ウズベキスタン

拠点機関：(英文) National Institute of Fine Art and Design named after Kamoliddin Bekhzod

(和文) ウズベキスタン芸術大学

コーディネーター(所属部局・職名・氏名)：(英文) Head of International Relations Department,
Senior teacher, Fazilat KODIROVA

協力機関：(英文) Samarkand State University

(和文) サマルカンド大学

協力機関：(英文) The International Islamic Academy of Uzbekistan

(和文) ウズベキスタン国際イスラムアカデミー

協力機関：(英文) Uzbekistan Academy of Sciences,

(和文) ウズベキスタン科学アカデミー

(2) 国名：中国

拠点機関：(英文) Dalian Nationalities University

(和文) 大連民族大学

コーディネーター(所属部局・職名・氏名)：(英文) Faculty of Design, Professor, MA Chun Dong

協力機関：(英文) なし

(和文) なし

(3) 国名：韓国

拠点機関：(英文) Dankook University

(和文) 檀国大学校

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：(英文) Dept.of Korean Traditional Costume, Assistant
Professor, Yoonmee PARK

協力機関：(英文) なし

(和文) なし

5. 全期間を通じた研究交流目標

本研究は、ウズベキスタンと日本、中国、韓国の芸術大学において、“手漉き紙”文化と“芸術表現”をテーマに調査・復興・再生を目指し、美術やプロダクト、文化財保存修復に応用できる紙と技法を開発する活動を、芸術大学の連携により成し遂げるための芸術・文化拠点の形成を目指している。

“紙”は、人類の根源的な文化形成における重要なメディアとして発展と交流、多様化を繰り返してきた。しかし、古来から伝わる“手漉き紙”文化は世界的に衰退傾向にあり、それらは大量生産時代の経済性や生活そのものの近代化など需要の変化によるものである。例えばウズベキスタンのサマルカンド紙は、硬筆によるカリグラフィー(書)やミニアチュール(細密画)の支持体として世界で最も美しいと言われた紙であるが約200年前に途絶えている。また、日本の和紙もユネスコの世界文化遺産として国際的な評価を得ているにもかかわらず、現在も衰退傾向が続き、後継者不足、従事者数の減少などに多くの問題を抱えている。

一方、紙の歴史や伝播をみると、タラスの戦い(751年)以降、この拠点形成を目指すアジアの国々は、過去1300年以上さかのぼっても“紙の道”として強いつながりを持つ関係にある。近代以前の紙の製法は人力と自然力によるもので、地域性、歴史性を象徴する多くの文化の跡が潜んでおり様々な情報を読み解くことができる。また紙に書(描)かれた文字や図、絵画などの表現は、日本、中国の古典絵画や、ウズベキスタンのミニア

チュールなど、文化、経済、宗教など様々な目的の情報伝達を果たしてきた。

この“手漉き紙と芸術表現”の課題を芸術大学の連携により研究することは、国際的な芸術の分野において地域性と時間軸を縦横に結ぶ文化を融和させる取り組みであり、単なる伝統的な紙や技法の復元ではなく、新たな技術や概念を形成し現代ニーズに向き合うメディアとプロダクトを生み出しうる研究交流の形を目指すことができる。また本計画はウズベキスタンのサマルカンド紙の復興を軸に、紙の道（アジアを結ぶペーパーロード）として、日本側のリーダーシップと中国、韓国との協働により、保存修復の文化事業や新素材の開発、新しい芸術活動への応用など“手漉き紙と芸術表現”の意味を現代において再定義し、各国の独自性と多様性の表出による地域文化の醸成を目指すことを目標としている。

6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

共同研究においては、主に 200 年前に途絶えたサマルカンド紙の復興・再生に関し、その実態を明らかにする調査を重点的に行った。そもそも中央アジアで旧ソ連でもあるウズベキスタンのサマルカンド紙に関する情報は非常に少なく、文献調査に関しても、日本では桑原隲蔵、海外ではオーストリアのカラバチェックの“Arab Paper”の研究による理論以外に明確なサマルカンド紙に関する研究事例は見つからない。

R-1 の調査では、古い写本の閲覧や情報収集を行ったが、入手した 18 世紀のサマルカンド紙の調査したところ原料は綿（コットン）であり、現状でサマルカンド紙の原料とされる桑や、紙の歴史の諸説による亜麻（リネン）などの材料と食い違う結果が出ていることから、現状でサマルカンド紙の実態は明らかではなく、これまでの紙に歴史における認識とくい違う事がわかってきた。またウズベキスタン内においても紙を中心とした研究がこれまで行われておらず、専門家レベルにおいても明確なサマルカンド紙の定義に至っていない。

そこで古いサマルカンド紙の起源となる原料を調査するためには、写本の閲覧及び携帯マイクロスコープ撮影と、紙片や繊維サンプルを日本に持ち帰り厳密な原料調査を行う必要がある。しかし対象とする紙は 18 世紀から古くは 12 世紀以前のイスラムの文化財であり、サンプル採取においては特別な許可を得ることが必須である。ウズベキスタン大使館の協力も得て、研究協力体制の増強を目指しており、平成 30 年 5 月にタシケントにて、古い写本の紙片や繊維の提供を求める許可を得るための会議を開催する計画を進めている。よってサマルカンド紙の調査は途上であるが、今後の調査を進めるための土台は築くことができた。

その他、紙のサンプル制作も、まずはウズベキスタンの桑の原料により制作を行い、塗布する澱粉質の材料や研磨の方法を変え継続的に試作を行っている。

また、R-1 と紙の道として関連する R-2 中国、R-3 韓国、関連する欧州の調査研究を実施し、各地域の紙の関連性と今後の研究計画を明確にした。この成果を、平成 30 年 11 月予定している S-2 中国セミナーにおいて紙の伝播と多様性をテーマとして開催することを予定している。

セミナーは、平成 30 年 2 月に S-1 をタシケントの拠点機関で実施し、前述の研究結果に

関すること、和紙、韓紙、中国紙などの歴史と今後の展望をテーマに議論を深めた。さらに、芸術系大学の交流として、同大学において紙による作品や日本の復元和紙や韓国の復元事例などによる展覧会を実施した。またセミナー開催後、サマルカンド大学においても同趣旨のセミナーをサマルカンドで実施したいとの要望があり、平成30年5月に開催を計画している。

研究者交流としては、平成29年6月にはウズベキスタン側研究者を招聘しキックオフミーティングを行い、ウズベキスタンでの博物館の閲覧、文化遺産の閲覧方法について協議し、具体的な調査計画を立案した。また、平成30年3月に実施した、サマルカンドから伝播した洋紙文化に関する事前調査においては、初期の洋紙文化の欧州への伝播が亜麻の布由来とされることから、同時代のサマルカンド紙の調査結果と照合することが重要であることがわかった。今後は、オーストリア・ライナーコレクション関連施設の視察を計画している。

7. 平成30年度研究交流目標

<研究協力体制の構築>

ウズベキスタンにおいては、前述の5月にタシケントで行う会議において、科学アカデミー東洋大学、タシケント国立図書館、ウズベキスタン国際イスラムアカデミー、サマルカンド大学（図書館・博物館）、イスラム文明センター、イマーム・ブハリ、イマーム・テルミジ記念国際科学研究センターなどの機関と、古い写本紙片や繊維の提供を求める許可を得るためのより強固な研究協力体制の構築を目指している。これらの機関は、ウズベキスタンにおいて18世紀以前の写本を多く所有しており、多くの事例の調査を促進することにより不明な点が多いサマルカンド紙の解明促進を目指す。また、科学アカデミー東洋大学、ウズベキスタン国際イスラムアカデミー、サマルカンド大学とは、愛知県立芸術大学との本研究に関するMOU締結などを行う見込みであり、研究協力体制に関しては大きな広がりを見せている。また、同5月に、サマルカンド大学の要望により本研究のセミナーを開催する予定である。

中国の大連民族大学では、11月にS-2中国セミナーを実施予定である。同セミナーにおいては、“紙の伝播と多様性”をテーマとして、本事業の2年目の共同研究成果の報告とセミナー、展覧会を開催する予定である。

韓国の檀国大学校とは、本事業ではセミナーの開催は行わないが、12月以降、愛知県立芸術大学と豊田市との共同研究（本事業経費外）において、手漉き紙と芸術表現をテーマとした「和紙素材の研究展VI+韓紙」を開催し、本事業のテーマにおいても国際交流の場を設定している。

<学術的観点>

200年前に途絶えたサマルカンド紙の解明に向けての調査は、本事業で取り組む“手漉き紙と芸術表現”という、紙そのものや表現技法に関する研究であり、ウズベキスタンでも研究の事例が少ない。現状のサマルカンド紙の復興プロジェクトでは、原料は桑で製紙し、米粉を塗布し磨いて制作するが、これまでの調査では綿の古布を原料とした事例が多く、

定説と食い違っている。ウズベキスタン内における写本の調査研究は、主に本に書かれた内容の調査が主体で、紙に原料や性質、どのように制作された紙であるかなどは、専門家レベルにおいても、明確なサマルカンド紙の定義に至っていない。

これまでも東洋大学などにおいては顕微鏡調査などの事例はあるようだが、検査に費用や時間がかかることから調査例が少なく、本研究で行う携帯マイクロスコープによる量的調査と、そこで判明する異なる繊維形状の事例を日本に持ち帰り厳密に調べ上げる質的調査は、サマルカンド紙の解明に新たな知見をもたらすのではないかと考えている。さらにこの調査方法は、紙の道として関連する R-2、R-3、R-4 の調査結果と融合すれば、アジアを中心とする紙の伝播と多様性という点で新たな知見が見出されることにも注目したい。

また書写や細密画の描画技法の探求も行っているが、これまでウズベキスタン内での調査においては、海外の美術館・博物館に見られるイスラム美術などの芸術表現として総合的に最高レベルの作品がウズベキスタンでは見つからず、非公開、或いは海外に離散し所有していない可能性があることがわかった。これらの観点から、かつてウズベキスタンで制作された優れた細密画作品に関しても体系的に調査する必要がある。本年度は海外事例も含めその概要を把握したいと考えている。

<若手研究者育成>

現在、本研究メンバーは、若手教員主体の参画において実施しており、①【展覧会】、②【プロジェクト研究の推進】、③【大学院博士（前期・後期）課程などの授業、研修、留学の活性化】などを念頭に行っている。

共同研究においては、サマルカンド紙の解明や歴史研究、細密画表現や金彩の研究など、若手研究者とテーマを分担しながら取り組んでおり、今後の成果発表なども積極的に実施する予定である。また本年度は博士前期後期課程学生修了生の研究参画も積極的に進めていく予定である。

本年度の S-2 中国セミナーにおいては、展覧会や共同研究の報告など、若手研究者に広く研究成果や作品発表などの機会を設定する予定である。

また、5月に実施する、サマルカンド大学のセミナーでは、紙の研究と古く朽ち果てた写本の修復方法の検討も依頼されており、日本の和紙を使った修復方法の研究も予定している。

さらに12月以降、前述の韓国で実施する「和紙素材の研究展VI+韓紙」を開催し、本研究の成果発表と合わせ、幅広く若手研究者が出品できる国際交流展を計画している。

<その他（社会貢献や独自の目的等）>

本研究の進度に合わせ、愛知県立芸術大学の和紙工房の充実を計画している。サマルカンド紙の復元研究に必要であるホーレンダービーターを同大学法人予算により新たに導入し、手漉き紙と芸術表現の研究の活性化や、綿など布由来の紙の制作にも取り組める体制の構築を予定している。

また、本年10月から来年1月までの期間において、愛知県立大学との連携による、公開講座「紙の道の文化史—正倉院からサマルカンドまで」を本研究と関連づけて計画して

おり、学術講演会 1 回、公開講座 4 回を開催する予定である。

8. 平成 30 年度研究交流計画状況

8-1 共同研究

整理番号	R-1	研究開始年度	平成 29 年度	研究終了年度	平成 31 年度
共同研究課題名	(和文) サマルカンド紙に関する調査 (英文) The research for the Samarkand paper				
日本側代表者 氏名・所属・職 名・研究者番号	(和文) 柴崎幸次・愛知県立芸術大学・教授・1-1 (英文) Koji SHIBAZAKI, Aichi University of the Arts, Professor, 1-1				
相手国側代表者 氏名・所属・職 名・研究者番号	(英文) (ウズベキスタン) Fazilat KODIROVA, National Institute of Fine Art and Design named after Kamoliddin Bekhzod, Senior teacher, 2-1				
30年度の 研究交流活動 計画	<p>平成 30 年 4 月：[紙の分析調査] 日本国内において昨年度収集したサマルカンド紙サンプルの原料分析を行う。柴崎、本田が行う。</p> <p>5 月【共同研究】サマルカンド紙に関する調査（写本・ミニアチュール調査）ウズベキスタン（タシケント、サマルカンド）。</p> <p>ウズベキスタン芸術大学、科学アカデミー東洋大学、サマルカンド大学で、古い写本の調査を行う。また原料分析用サンプル紙片を入手する。</p> <p>日本側は柴崎、鈴木、大柳、岩田の 4 名を 7 日間タシケント、サマルカンドと、かつて優れた写本工房があったブハラへの派遣を予定している。</p> <p>6 月：[紙の分析調査] 日本国内において昨年度収集したサマルカンド紙サンプルの原料の分析を行う。柴崎、岩田が行う。</p> <p>11 月：【セミナーでの報告・展示開催】中国セミナー（大連民族大学）の実施。国際交流展の実施、講演・報告の実施（日本の和紙文化、サマルカンド紙調査報告、中国紙、韓国紙の報告）、日本から柴崎、阪野、鈴木、佐藤、岩田を中国へ 5 日間派遣予定</p> <p>11 月：[公開講座等] 公開講座「紙の道の文化史—正倉院からサマルカンドまで」にて、これまでの調査概要を含めた講演を行う。柴崎、鈴木が参加。</p> <p>12 月～2 月：[試作] 愛知芸大和紙工房にて、サマルカンド紙試作実験を行う。</p>				

30年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果	主に日本とウズベキスタンとの共同研究により、古い写本や細密画に関する調査を実施することで、不明な点が多いサマルカンド紙がどのような紙であったのかを共同研究により解明する。また中央アジアで旧ソ連であったウズベキスタンのサマルカンド紙に関する情報や事例も少ないが、現在の方法でサマルカンド紙を研究することにより新たな知見を明確にする。
---	---

整理番号	R-2	研究開始年度	平成 29 年度	研究終了年度	平成 31 年度
研究課題名	(和文) 中国紙に関する調査 (英文) The research for the Chinese paper				
日本側代表者 氏名・所属・ 職	(和文) 柴崎幸次・愛知県立芸術大学・教授・1-1 (英文) Koji SHIBAZAKI, Aichi University of the Arts, Professor, 1-1				
相手国側代表 者 氏名・所属・ 職	(英文) (中国) MA Chun Dong, Dalian Nationalities University, professor, 3-1				
30年度の 研究交流活動 計画	6月：【共同研究】大連民族大学（大連）を訪問し、多様な中国紙の文化研究の視点から今後の調査実施計画の具体化を行う。また、同時により西方の紙文化関連施設の視察・調査を行う。日本側は柴崎、佐藤を大連、北京等に5日間派遣し、中国側は周、金、王が研究実施する。 11月：【セミナーでの報告・展示開催・視察】中国セミナー（ウズベキスタン芸術大学）の実施。国際交流展の実施、講演・報告を実施する。日本から柴崎、阪野、鈴木、佐藤、岩田を中国へ5日間派遣予定。				
30年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果	大連民族大学との共同調査により、紙の起源から早期に発展を遂げた中国の紙に関する調査研究を、これまでの和紙研究の成果を生かし紙の多様性を重視する形で実施する。また現在の中国紙の実態とも照らし合わせ、紙の系譜を俯瞰的にまとめる形で進めていく。これらの研究は11月の中国セミナーにおいて主要なテーマとして位置づけている。				

整理番号	R-3	研究開始年度	平成 29 年度	研究終了年度	平成 31 年度
研究課題名	(和文) 韓国紙に関する調査				
	(英文) The research for the Korean paper				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 柴崎幸次・愛知県立芸術大学・教授 1-1				
	(英文) Koji SHIBAZAKI, Aichi University of the Arts, Professor 1-1				
相手国側代表者 氏名・所属・職	(英文)				
	(韓国) Yoonmee PARK, Dankook University, Assistant Professor 4-1				
30年度の 研究交流活動 計画	<p>1 1 月：【セミナー・展示開催】中国セミナー（大連民族大学）において、和紙、中国紙、韓国紙の研究報告を行う。</p> <p>平成30年12月：【共同研究】韓国の朝鮮王朝実録の複製本制作事例から、その制作工程を検証し、韓紙の研究を行う。</p>				
30年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果	<p>檀国大学校との共同調査により、紙の起源からいち早く発展を遂げた朝鮮半島の紙に関する研究は、サマルカンド紙、中国紙と同様に重要であり、紙の伝播と多様性の研究を深めることが期待できる。</p> <p>また、日本の和紙と地理的に近い韓紙で「和紙素材の研究展VI+韓紙」という研究交流展を行うことにより、韓国での研究成果発表が実現することや、両国の手漉き紙と芸術表現に関する研究が一層深まることが期待できる。</p>				

整理番号	R-4	研究開始年度	平成 30 年度	研究終了年度	平成 31 年度
研究課題名	<p>(和文) サマルカンドから伝播した洋紙文化の調査</p> <p>(英文) The research for Western paper culture propagated from Samarkand</p>				
日本側代表者 氏名・所属・ 職	<p>(和文) 柴崎幸次・愛知県立芸術大学・教授・1-1</p> <p>(英文) Koji SHIBAZAKI, Aichi University of the Arts, Professor, 1-1</p>				
相手国側代表 者 氏名・所属・ 職	<p>(英文)</p> <p>(ウズベキスタン) Fazilat KODIROVA, National Institute of Fine Art and Design named after Kamoliddin Bekhzod, Senior teacher, 2-1</p>				
30年度の 研究交流活動 計画	<p>31年2月【共同研究】イタリア・ファブリアーノの調査、オーストリア(ウイーン)パピルスミュージアムの調査。</p> <p>欧州に紙が伝わった13世紀に近い紙の調査として、ライナーコレクション関連施設の視察・調査を計画している。柴崎、高梨、大柳を7日間派遣予定。</p>				
30年度の 研究交流活動 から得られる ことが期待さ れる成果	<p>テーマである手漉き紙と芸術表現において、中国を起源として東西に渡って伝播した紙の文化史として、イスラムの国々を通じて欧州に伝わったサマルカンド紙と洋紙文化の同時代分析を行うことにより、どのようにサマルカンド紙が欧州に伝播し、変化したのかを検証することができる。また、サマルカンド紙が一地域の紙にとどまらず、歴史上いかに重要な紙文化であったかを再評価することができる。</p> <p>これらの研究は、3年目に日本セミナーにおいて「紙の伝播と多様性」などで成果を発表したい。</p>				

8-2 セミナー

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「現代に生きる“手漉き紙と芸術表現”の研究 ~紙の伝播と多様性~」ウズベキスタン(サマルカンド)セミナー (英文) JSPS Core-to-Core Program “The research for the culture of contemporary Hand-Made Paper and artistic expression.”
開催期間	平成 30 年 5 月 14 日 (1 日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) サマルカンド大学 (英文) Samarkand State University
日本側開催責任者 氏名・所属・職名・研究者番号	(和文) 柴崎幸次・愛知県立芸術大学・教授・1-1 (英文) Koji SHIBAZAKI, Aichi University of the Arts, Professor, 1-1
相手国側開催責任者 氏名・所属・職名・研究者番号(※日本以外での開催の場合)	(英文) Muhtor Nasirov, Samarkand State University, Vice-Rector, 2-13

参加者数

派遣先 派遣元		セミナー開催国 (ウズベキスタン)		備考
		A.	B.	
日本	A.	4/	32	
	B.	2		
ウズベキスタン	A.	1/	8	
	B.	30		
合計 <人/人日>	A.	5/	40	
	B.	32		

A. 本事業参加者(参加研究者リストの研究者等)

B. 一般参加者(参加研究者リスト以外の研究者等)

※人/人日は、2/14(=2人を7日間ずつ計14日間派遣する)のように記載してください。

※日数は、出張期間(渡航日、帰国日を含めた期間)としてください。これによりがたい場合は、備考欄にその内訳等を記入してください。

セミナー開催の目的	<p>本事業の研究課題「現代に生きる“手漉き紙と芸術表現”の研究」に関する、ウズベキスタンでの2回目のセミナーであり、サマルカンド大学・図書館にて実施し、サマルカンド紙の解明に焦点をあてる。古い写本や細密画の紙に関する調査報告とサマルカンド紙に関する議論の場として開催する。</p> <p>さらにセミナー参加者に個人で所蔵する古い本などを持ち寄り参照することや、今後の古書の修復方法など議論する。</p>	
期待される成果	<p>セミナーは、サマルカンド大学・図書館から、S-1セミナーを是非サマルカンドで行いたいとの意向があり実施する。同大学のネットワークを通じて、サマルカンド紙の解明に関する周知につながると期待している。</p>	
セミナーの運営組織	<p>サマルカンド大学と愛知県立芸術大学が共同で行う。また事務支援は、サマルカンド大学・図書館及び愛知県立芸術大学学務部芸術情報広報課が行う。</p>	
開催経費 分担内容	日本側	<p>内容 国内旅費、外国旅費、謝金、消耗品購入費</p>
	(ウズベキスタン) 側	<p>内容 セミナー会場提供、開催費用。</p>

整理番号	S-2
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「現代に生きる“手漉き紙と芸術表現”の研究 ~紙の伝播と多様性~」中国セミナー (英文) JSPS Core-to-Core Program “The research for the culture of contemporary Hand-Made Paper and artistic expression. ~Propagation and Diversity of Paper~” China seminar
開催期間	平成 30 年 10 月 31 日 ~ 平成 30 年 11 月 1 日 (2 日間)
開催地 (国名、都市名、会場名)	(和文) 中国、大連、大連民族大学 (英文) Uzbekistan, Tashkent, National Institute of Fine Art and Design named after Kamoliddin Bekhzod
日本側開催責任者 氏名・所属・職名・研究者番号	(和文) 柴崎幸次・愛知県立芸術大学・教授・1-1 (英文) Koji SHIBAZAKI, Aichi University of the Arts, Professor, 1-1
相手国側開催責任者 氏名・所属・職名・研究者番号(※日本以外での開催の場合)	(英文) MA Chun Dong, Dalian Nationalities University, Professor, 3-1

参加者数

派遣先 派遣元		セミナー開催国 (中国)		備考
		A.	B.	
日本	A.	5/	30	
	B.	0		
ウズベキスタン	A.	4/	20	
	B.	0		
中国	A.	4/	20	
	B.	60		
韓国	A.	1/	5	
	B.	0		
合計 <人/人日>	A.	14/	75	
	B.	60		

A. 本事業参加者 (参加研究者リストの研究者等)

B. 一般参加者 (参加研究者リスト以外の研究者等)

※人/人日は、2/14 (=2人を7日間ずつ計14日間派遣する) のように記載してください。

※日数は、出張期間 (渡航日、帰国日を含めた期間) としてください。これによりがたい場合は、備考欄にその内訳等を記入してください。

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>本事業の研究課題「現代に生きる“手漉き紙と芸術表現”の研究」に関する、第2回目のセミナーであり、～紙の伝播と多様性～をテーマに、サマルカンド紙の解明や同時代の中国紙に関する研究を深めることが目的である。また、和紙、韓国紙に関連の調査報告を行う。</p> <p>サマルカンド紙に関しては、特に古い写本やミニアチュールの紙の調査報告と、各国の紙の比較など実施した結果を報告する。さらに参加研究者のパネル展示、ワークショップ、展示（手漉き紙と芸術表現に関するもの）などを実施する。</p>	
<p>期待される成果</p>	<p>セミナーは大連民族大学で行うが、同大学のネットワークを通じて、古来の中国紙研究と本研究のテーマである“紙からつくる芸術表現”に関する目的の周知につながると期待している。</p> <p>また、関係国の拠点機関でセミナーを行うことにより、各国の紙文化への理解を深めるとともに、本事業の協力体制を強固にし、研究交流活動から関連した研究の推進や教育環境の整備を誘発できる成果があがることを期待している。</p>	
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>大連民族大学と愛知県立芸術大学が共同で行う。また事務支援は、大連民族大学事務局及び愛知県立芸術大学学務部芸術情報広報課が行う。</p>	
<p>開催経費 分担内容</p>	<p>日本側</p>	<p>内容 国内旅費、外国旅費、謝金、消耗品購入費 デザイン・印刷費</p>
	<p>(中国) 側</p>	<p>内容 セミナー会場提供、中国国内開催費用。 中国国内研究者旅費</p>

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

共同研究、セミナー以外の交流（日本国内の交流を含む）計画を記入してください。

所属・職名 派遣者氏名・研究者番号	派遣時期 (●月・●日間)	訪問先・内容
愛知県立芸術大学・教授 柴崎幸次 1-1 ・非常勤講師 岩田明子 1-10 ・非常勤講師 鈴木美賀子 1-6 ・非常勤講師 大柳陽一 1-9	5月・7日間	訪問先：ウズベキスタン・タシケント・サマルカンド 内容：本研究の推進において、古い写本紙片や繊維の提供に関する協力体制の構築を目指した会議を実施する。参加メンバーは、科学アカデミー東洋大学、タシケント国立図書館、ウズベキスタン国際イスラムアカデミー、サマルカンド大学（図書館・博物館）などの機関。
愛知県立芸術大学・非常勤講師 岩田明子 1-10	5月・7日間	訪問先：ウズベキスタン・タシケント・サマルカンド 内容：本研究の推進において、古い写本紙片や繊維の提供に関する協力体制の構築を目指した会議を実施する。参加メンバーは、科学アカデミー東洋大学、タシケント国立図書館、ウズベキスタン国際イスラムアカデミー、サマルカンド大学（図書館・博物館）などの機関。
愛知県立芸術大学・非常勤講師 鈴木美賀子 1-6	5月・7日間	訪問先：ウズベキスタン・タシケント・サマルカンド 内容：本研究の推進において、古い写本紙片や繊維の提供に関する協力体制の構築を目指した会議を実施する。参加メンバーは、科学アカデミー東洋大学、タシケント国立図書館、ウズベキスタン国際イスラムアカデミー、サマルカンド大学（図書館・博物館）などの機関。
愛知県立芸術大学・非常勤講師 大柳陽一 1-9	5月・7日間	訪問先：ウズベキスタン・タシケント・サマルカンド 内容：本研究の推進において、古い写本紙片や繊維の提供に関する協力体制の構築を目指した会議を実施する。参加メンバーは、科学アカデミー東洋大学、タシケント国立図書館、

		ウズベキスタン国際イスラムアカデミー、サマルカンド大学（図書館・博物館）などの機関。
--	--	--

※1名につき1行で記入してください。

9. 平成30年度研究交流計画総人数・人日数

9-1 相手国との交流計画

派遣先 派遣元	日本 〈人/人日〉	ウズベキスタン 〈人/人日〉	中国 〈人/人日〉	韓国 〈人/人日〉	イタリア 〈人/人日〉	オーストリア 〈人/人日〉	合計 〈人/人日〉
日本 〈人/人日〉		4 / 32 (/)	7 / 42 (/)	/ (/)	3 / 24 (/)	3 / 24 (/)	17 / 122 (0 / 0)
ウズベキスタン 〈人/人日〉	/ (/)		4 / 20 (/)	/ (/)	/ (/)	/ (/)	4 / 20 (0 / 0)
中国 〈人/人日〉	/ (/)	/ (/)		/ (/)	/ (/)	/ (/)	0 / 0 (0 / 0)
韓国 〈人/人日〉	/ (/)	/ (/)	1 / 5 (/)		/ (/)	/ (/)	1 / 5 (0 / 0)
イタリア 〈人/人日〉	/ (/)	/ (/)	/ (/)	/ (/)		/ (/)	0 / 0 (0 / 0)
オーストリア 〈人/人日〉	/ (/)	/ (/)	/ (/)	/ (/)	/ (/)		0 / 0 (0 / 0)
合計 〈人/人日〉	0 / 0 (0 / 0)	4 / 32 (0 / 0)	12 / 67 (0 / 0)	0 / 0 (0 / 0)	3 / 24 (0 / 0)	3 / 24 (0 / 0)	

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※相手国側マッチングファンドなど、本事業経費によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。

※相手国以外の国へ派遣する場合、国名に続けて(第三国)と記入してください。

9-2 国内での交流計画

	交流予定人数 〈人/人日〉
合計	7 / 14 (/)

10. 平成30年度経費使用見込み額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	240,000	国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。
	外国旅費	4,030,000	
	謝金	600,000	
	備品・消耗品購入費	875,500	
	その他の経費	250,000	
	不課税取引・非課税取引に係る消費税	0	別経費にて充当
	計	5,995,500	研究交流経費配分額以内であること。
業務委託手数料		599,550	研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。
合 計		6,595,050	